

若年層をひきつけた『改革』のメッセージ

～第44回衆議院選挙世論調査から～

原美和子

小林利行・編成局（編成）

はじめに

9月11日に投票がおこなわれた第44回衆議院選挙は、郵政民営化関連法案が、与党自民党議員が一部反対に回ったために参議院で否決されたのを受け、小泉総理大臣が衆議院を解散する、という異例の経緯を経ておこなわれた。選挙戦では、有権者が、郵政民営化の是非に論点を収斂させた小泉政権の「改革」路線の継続を選ぶのか、それとも政権交代を選ぶのが、最大の争点となった。

結果は、自民党が選挙区で219議席、比例代表で77議席と、絶対安定多数を超える296議席を獲得して圧勝した。中でも東京都の25選挙区で23議席を獲得するなど、これまで民主党が優勢だった都市部でも大きく議席を伸ばした。与野党間での勢力関係でも、公明党の31議席と合わせ、与党として、衆議院の全議席の3分の2を上回る327議席を

確保した。

一方、野党側は、民主党が、公示前の177議席から113議席と、議席を大幅に減らし、岡田代表は大敗の責任を取って代表を退いた。

第43回衆議院選挙、そして第20回参議院選挙にかけて進んできた二大政党化の流れは後退する結果になった。

また郵政民営化関連法案の採決で反対票を投じ、自民党から公認を得られなかった議員は、一部が「国民新党」「新党日本」を結成したほか、無所属での立候補を余儀なくされたが、当選したのは比例による復活も含め立候補した33人中17人とどまった。

NHKでは、今回の衆議院選挙にあたって、有権者の選挙に対する関心や投票意向などを把握するため、表1に示したように投票3週前から1週おきに、計3回の全国世論調査をおこなった¹⁾。

調査結果からは、これまで政治や選挙から

表1 衆議院選挙に関する世論調査の概要

調査名	第1回全国調査	第2回全国調査	第3回全国調査
調査時期	8月19日(金)～21日(日)	8月26日(金)～28日(日)	9月2日(金)～4日(日)
調査対象	全国有権者	全国有権者	全国有権者
調査相手	1,710人	1,747人	1,748人
調査方法	電話法(RDD)	電話法(RDD)	電話法(RDD)
回答数(率)	1,070人(62.6%)	1,200人(68.7%)	1,185人(67.8%)

距離を置きがちだった20・30代の若年層の有権者の選挙への関心の高まりをはじめ、今回の選挙を特徴付けるいくつかの傾向を読み取ることが出来る。

このレポートでは、3回の調査結果を基に、こうした傾向についてまとめると同時に、投票の1週間後におこなった定例の政治意識調査結果も合わせ、選挙結果を有権者がどう受け止めたかについて報告する。(調査概要・単純集計結果は本文末に掲載)

1. 揺り起こされた20・30代有権者

大幅に上昇した「関心」「意欲」

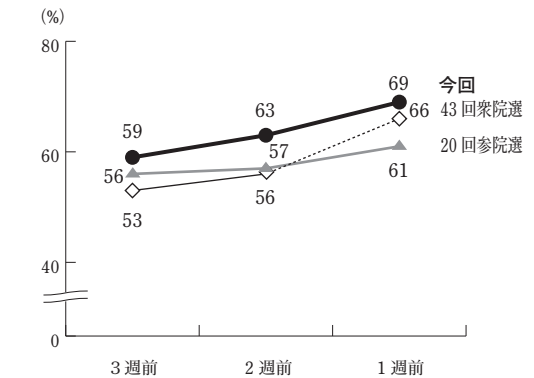
今回の選挙の投票率は、前回より7.65%高い67.51%に達し、平成8年に現在の小選挙区比例代表並立制が導入されてから最も高くなった。

これは、解散に至る経緯が異例だったことに加え、著名人や官僚ら「刺客」候補と「造反議員」の対決や、郵政民営化関連法案に反対した議員による新党結成、それに各党幹部の連日のテレビ出演など、有権者の関心をひきつける話題に事欠かなかったことが、その大きな要因だったと指摘されている。

選挙への強い関心や高い投票意欲は、調査結果からも読み取ることが出来る。「選挙に(非常に+ある程度)関心がある」人や、投票に「必ず行く」人の割合は、第43回衆議院選挙や、昨年おこなわれた第20回参議院選挙の際と比べても高い(図1)。

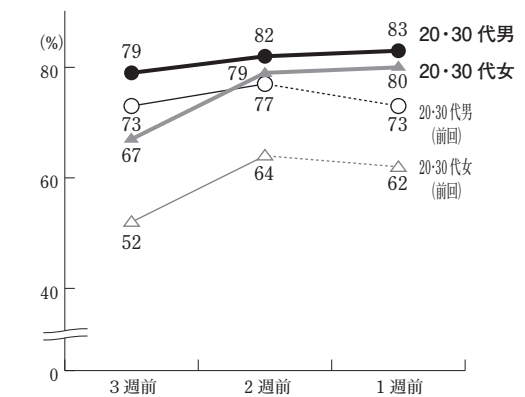
この中で特徴的なのは、20・30代の「若年有権者」の、選挙への関心と投票意欲の高まりである。図2は、今回の20・30代の調査結果を前回43回衆院選時の調査結果と比較した

図1 投票意欲(投票に「必ず行く」+「期日前投票」)



・43回衆院選の1週間前調査は、質問構成がやや異なり、単純な比較は出来ないため、参考値として記載している。(以下同様)

図2 20・30代の選挙への関心(「非常に」+「ある程度」)

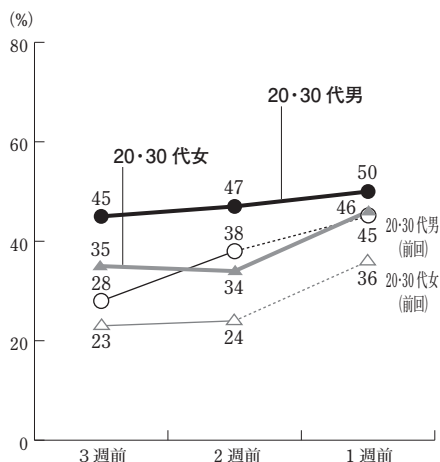


ものである。20・30代での関心・意欲が、前回に比べて高くなっていることが一見してわかる。まず、今回の選挙に「(非常に+ある程度)関心がある」割合は、3週前の調査で、20・30代男性が79% (前回同時期73%)、20・30代女性で67% (前回同時期52%)である。他の年層も前回より高くはなっているが、もともと関心が高い年層であることもあり、目立つのはやはり20・30代での動きである。

こうした傾向は投票意欲についても同様である。20・30代の男性では、「(投票に)必ず行く」が、投票3週間前、前回同時期の28%

を大きく上回る 45% に達している。また 20・30 代女性ではそれよりやや低いが、それでも 35% と、前回同時期の 23% に比べ投票意欲は高い。このことは、今回投票率が大幅に上がったことと無関係ではないだろう (図 3)。

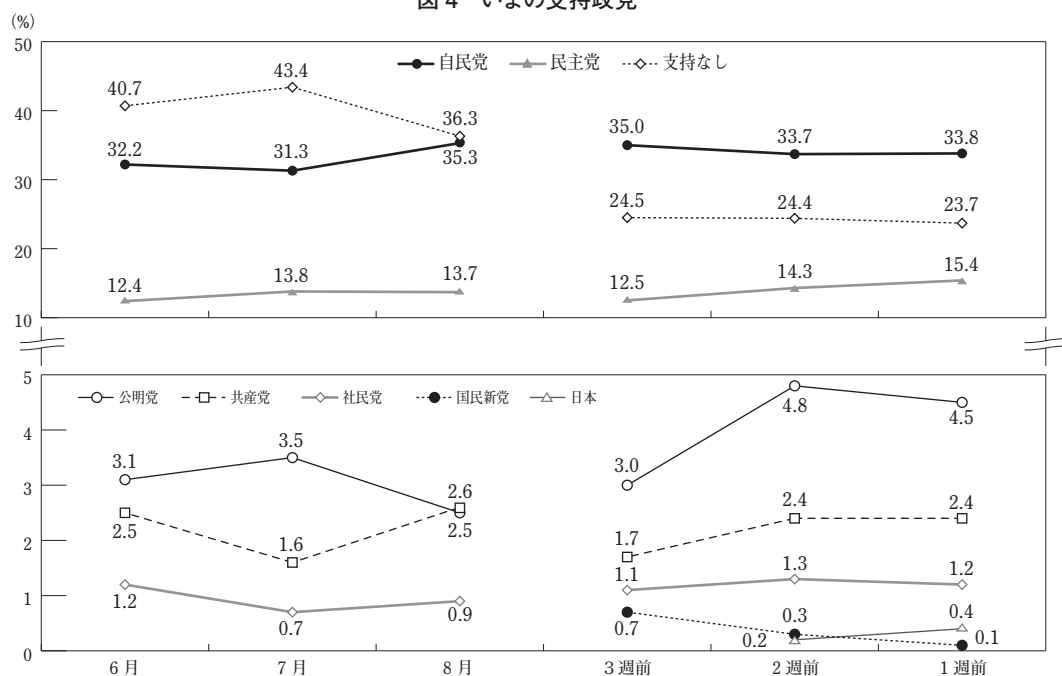
図 3 20・30 代の投票意欲(投票に「必ず行く」+「期日前投票」)



20～30 代の自民党支持率の上昇

20・30 代でのこのような選挙への関心の高まりは、この他の調査結果にどのような影響を与えているのだろうか。まず、衆議院解散から投票へと至る中での、有権者の支持政党の推移をみていこう。解散直後におこなった政治意識調査(8月)以降、各政党の支持率については、全体としてはそれ程の大きな変化はみられない。自民党の支持率は、7月調査から8月調査にかけて 35.3% といったんやや上昇したものの、その後は 35.0% → 33.7% → 33.8% とあまり変化せず、前回の 43 回衆議院選挙とほとんど変わらない。一方民主党支持率は、3 週前から 1 週前にかけてやや上昇している、という程度で、これも第 43 回衆議院選挙や第 20 回参議院選挙での支持率の伸びに比べれば、今ひとつである (図 4)。

図 4 いまの支持政党



・6月～8月は定例の政治意識調査結果 (以下同様)

しかし、年層別の変化を追ってみると、20・30代で、衆院解散以降自民党の支持率が目立って上昇していることがわかる。3週前の調査時点では、前回選挙の同じ時期(26%)とほとんど変わらない28%だったのが、2週前には大幅に上昇し、37%に達した(前回同時期は27%)。1週前には、34%とやや下がりはあるが、この年層としては高い水準を維持している。一方、通常自民党支持の中核を担ってきたとされる60歳以上のいわゆる高齢者層では、支持率の変化はほとんどみられない(図5)。

「支持なし」層でも自民へ傾斜

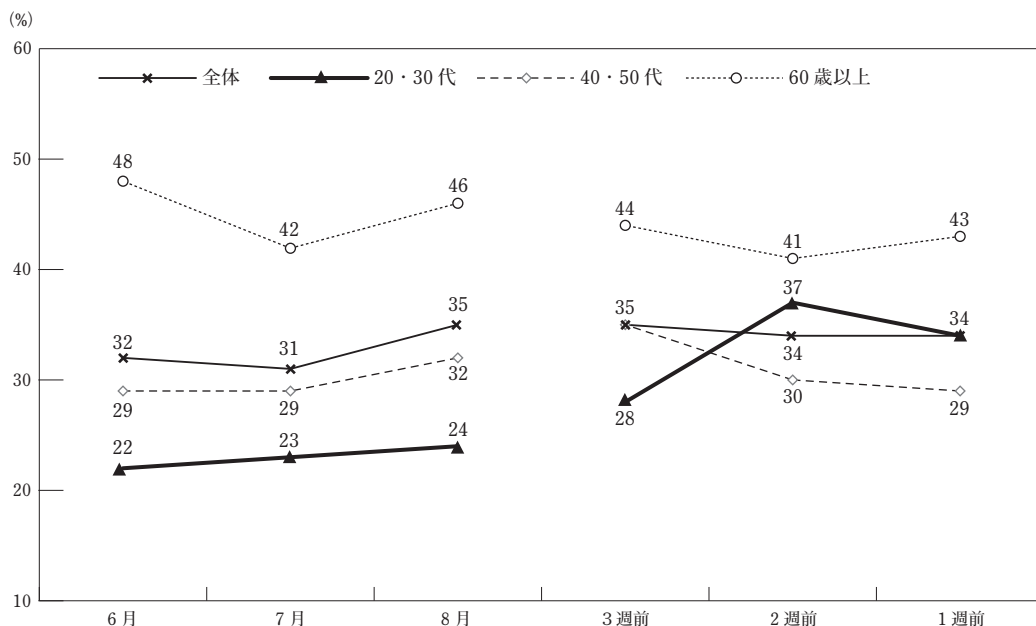
それでは、具体的な投票行動への影響はどうだろうか。ここでは「支持なし」層での動きを中心にみていきたい。特定の支持政党を持たない「支持なし」層の動向は、選挙結果

を大きく左右する要素である。今回の調査でも、3回を通じて、24.5%→24.4%→23.7%とほぼ4人に1人が「支持なし」層だった。

表2は、「支持なし」層が比例代表でどの政党に投票するか、に対する回答を、年層別に分類したものである。このうち、20・30代「支持なし」層での投票予定政党では、「自民党」が、3週前には2%だったのが1週前には8%に上昇していることがわかる。それに比べ「民主党に投票」にはそれ程の伸びはない。

それでは、他の年層ではどうだろうか。40・50代「支持なし」層では、「自民党に投票」は、3週前で8%と20・30代「支持なし」層に比べ高いが、その後は10%→9%と、投票が近づくにつれ増加しているわけではない。むしろ「民主党に投票」の伸びの方が目立つ。また60歳以上「支持なし層」では「自民党へ投票」が増えているが、3回を通じた伸びの

図5 自民党支持率(年層別)



勢いを考えれば、20・30代の方が変化が顕著である。

表2 「支持なし」層の比例代表投票予定(年層別)

(%)

	20・30代支持なし			40・50代支持なし		
	3週前	2週前	1週前	3週前	2週前	1週前
	89人	88人	84人	109人	124人	105人
自民党	2	1	8	8	10	9
民主党	5	7	4	5	5	10

もともと「支持なし」層は、投票直前までの政党に投票するのかわからない場合が多い。そうした中、今回の選挙については20・30代「支持なし」層では、すでに投票1週前の時点で、自民党への投票を意識する動きがみとれる。今回の選挙を特徴付ける動きのひとつである。

NHKが実施している「日本人の意識」調査では、国政選挙の際に、自分たちが投票することが、国政にどの程度の影響を与えているか、という意識(政治的有効感覚)について尋ねている。2003年調査の結果によれば、「影響を与えている」と考えている人の割合は、今回着目した20・30代の年層を含め、若い年層ほど低い²⁾。またこうした若い年層では「支持なし層」が多いのも特徴である。政治や選挙との関わりに無頓着、あるいは距離をおいてきた若い人たちが、今回は選挙に関心を寄せ、投票意欲を高めた。その点は、今回の選挙における大きな特色である。

今回の選挙では、郵政民営化問題などの「政策」から「刺客」と呼ばれた自民党公認候補の擁立まで、自民党に関わる動きがマスコミで頻繁に取り上げられた。そうした情報に接する中で、20・30代有権者の意識に、自民党の存在感がこれまで以上に高まったことが、調査結果から読み取れる。

2. 自民党の圧勝を可能にしたもの

争点設定が勝敗の分かれ目

今回の選挙では、争点の設定において自民党が主導権を握ることに成功したことも、自民党の勝因のひとつと考えられている。この点を調査結果からみていこう。

調査では、小泉総理大臣が進める郵政民営化に対する賛否を尋ねている。これはまさに、小泉総理大臣が「国民に問いたい」とした質問だが、これに対しては「賛成」が3回の調査を通じて半分程度、「反対」が4分の1程度である。第3回の調査結果を、支持政党別に分類したのが、表3である。

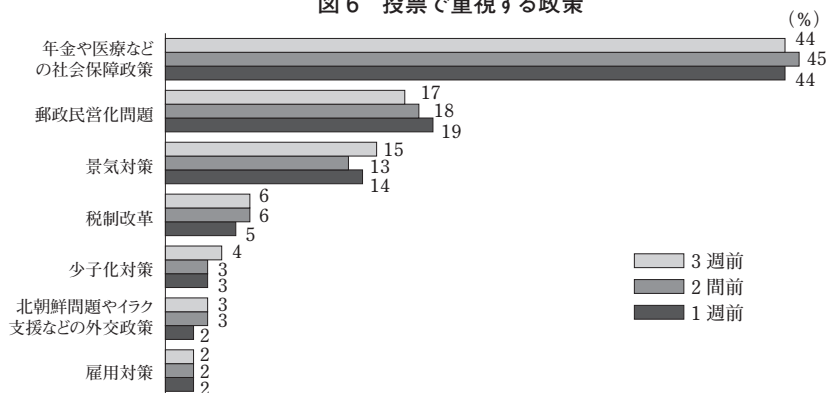
表3 小泉総理の郵政民営化への賛否(支持政党別・1週間前)

(%)

	自民党	民主党	支持なし
	400人	183人	281人
賛成	77	30	51
反対	15	60	28

自民党支持者では、賛成が圧倒的に多いのに対し、民主党支持者では、「反対」が多いものの、「賛成」も毎回少なからぬ割合となっていたことが注目される。投票1週前の時点でも、3分の1が「賛成」と答えている。民主

図6 投票で重視する政策



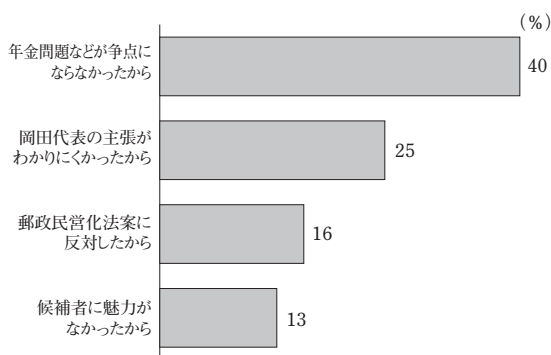
党は、郵政民営化関連法案に、対案こそ出していないものの、反対してきた。しかし、民主党支持者の中ですら、このように、郵政問題に関するスタンスは一様ではない。

もちろん、政治課題は「郵政民営化問題」だけではない。たとえば、今回の選挙で投票するにあたって、一番重視する政策として最も多くあげられたのは「郵政民営化」ではなく「年金や医療などの社会保障政策」である(図6)。これは、民主党や他の野党が当初こぞって主張した政治課題である。その点では、有権者の方向性に沿って争点設定をしていたのはむしろ野党であるともいえる。しかし、自民党は、争点を「郵政民営化」に絞って、

その賛否がすなわち「改革」への賛否だとして、有権者に「改革か否か」というシンプルな二者択一を求めた。そうした状況下で、野党の主張は埋没し、有権者に「改革に後ろ向き」というイメージを与えてしまったのではないだろうか。今回、自民党は「改革を止めるな」、民主党は「日本を、あきらめない」を標榜して選挙戦に臨んだが、まさにこのメッセージの違いが、選挙結果にも現れたと考えることができる。

選挙後におこなった調査からは、選挙における争点の設定を失敗したことが、民主党の敗因だと考える有権者が多いことがわかる。民主党が大幅に議席を減らした主な原因について、「民主党が重視した年金や少子化問題が明確な争点にならなかったから」と答えた人が40%と最も多く、次いで「岡田代表の主張がわかりにくかったから」が25%となっている(図7)。

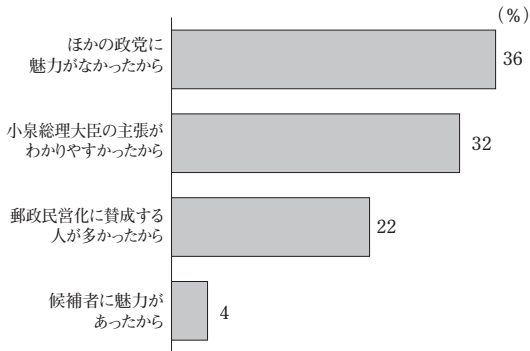
図7 民主党の敗因



これは支持政党別にみても傾向は変わらない。自民支持、民主支持、支持なし、どの層でも「年金や少子化問題が争点にならなかったから」と答えた人が一番多かった。

一方、自民党が大幅に議席を増やした主な原因については、最も多かった回答が「ほかの政党に魅力がなかったから」で36%、ついで

図8 自民党の勝因



で「小泉総理大臣の行動や主張がわかりやすかったから」が32%、「郵政事業の民営化に賛成する人が多かったから」が22%などとなっている(図8)。これを支持政党別にみると、自民支持層では、「小泉総理大臣の行動や主張がわかりやすかったから」が40%で一番多く、民主支持層では「ほかの政党に魅力がなかったから」が39%で一番多くなっている。そして、支持なし層では「ほかの政党に魅力がなかったから」と答えた人が45%で一番多くなっている(表4)。争点を郵政民営化問題1本に絞って単純化した小泉総理大臣の「わか

表4 自民党の勝因(支持政党別)

(%)	全体	自民 (480人)	民主 (200人)	支持なし (290人)
郵政民営化に賛成する人が多かった	22	24	24	19
小泉総理大臣の行動や主張がわかりやすかった	32	40	27	26
自民党の候補者に魅力があった	4	5	2	3
ほかの政党に魅力がなかった	36	29	39	45
わからない・無回答	6	1	8	8

りやすさ」に加え、「ほかの党よりはよかったから」という消極的な理由もあって、自民党が大勝したと考える有権者が多いという結果になっている。

このところの選挙では、投票が近づくとつれて、民主党への支持が高まり、かつ実際の投票では「無党派層」の支持も取り付けた民主党の躍進、というパターンが続いていたが、今回の調査結果からは、そうした勢いはみとれなかった。「改革」を期待する風は、これまで民主党にも寄せられていたが、今回は、自民党の主張のわかりやすさや、野党のアピール力の弱さといった要素が重なり、自民党への風となったと考えられる。

小選挙区制が可能にした「圧勝」

また、今回の自民党の圧勝は、「小選挙区制」という制度的な要因も大きく関係しているといえる。全国の選挙区で自民党と民主党が獲得した票はそれぞれ約3,252万票、約2,480万票と、自民党の獲得票は民主党の約1.3倍である。それに対し、獲得議席は自民党が219議席、民主党が52議席と、自民党は、民主党の4倍以上の議席を獲得し、獲得票の差以上に民主党を大きく引き離れた。前回の衆議院選挙では、自民党は獲得票数で民主党の約1.2倍だったのに対し、獲得議席での差は1.6倍程度だったのと比べると、今回の獲得票数と議席数の差の大きさが実感できる。いわゆる「死に票」が多く発生しがちで、獲得票以上に議席の差が開く場合がありえる小選挙区制ならではの結果である。

このように、今回の選挙は、政党間の勢

力関係が容易に大きく変わり得るという小選挙区制ならではの特性が典型的に示されたものとなった。

3. 自民党の圧勝はどう受け止められたか

自民の議席数、半数が“多すぎる”

今回の選挙結果を、有権者はどのように受け止めているのだろうか。まず、選挙結果の「満足度」からみてみよう。選挙の結果に全体的として満足しているかどうかと聞いたところ「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると57%だった。一方「不満だ」と「どちらかといえば不満だ」を合わせると39%で、選挙結果には「満足」と感じている人の方が多い(図9)。

ただし、全体的な満足度と、自民・民主の獲得議席数の受け止め方は違っている。

今回、自民党は296議席を獲得し、1990年以来15年ぶりに単独で過半数を突破した。この自民党の議席数をどう思うかと尋ねたところ「もっと少ないほうがよかった」と答えた人は53%で、半数を上回った。これに対して「もっと多いほうがよかった」は6%にとどまっている(図10)。

これを支持政党別にみたのが表5である。支持なし層では64%、3人に2人が「もっと少ないほうがよかった」と答えている。また、自民支持層の中では、「この程度でよい」が57%で半数を超えているものの、「もっと少ないほうがよかった」という人も31%となっている。

次に、民主党についてみていきたい。113議席と選挙前より大幅に後退した民主党の議席数については、「もっと多いほうがよかった」と答えた人が56%で、半数を超えている。

図9 選挙結果の満足度

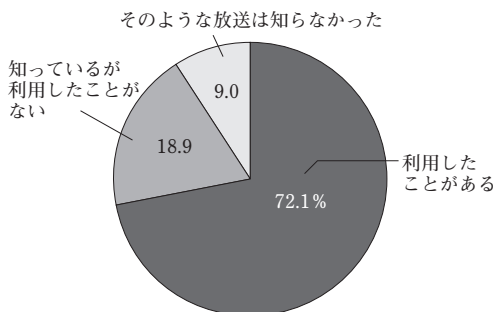


図10 自民の獲得議席数どう思うか

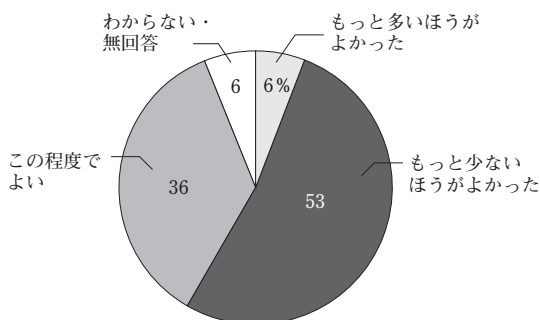
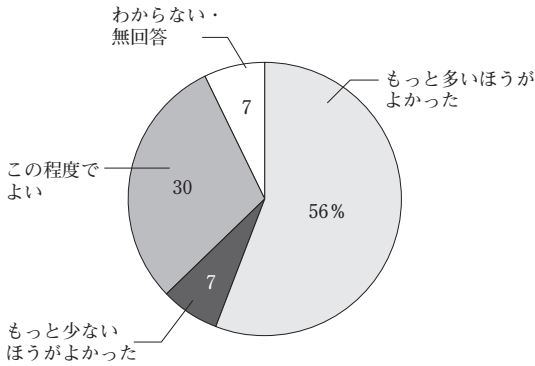


表5 自民の獲得議席数どう思うか(支持政党別)

	全体 (%)	自民 (480人)	民主 (200人)	支持なし (290人)
もっと多いほうがよかった	6	9	2	1
もっと少ないほうがよかった	53	31	88	64
この程度でよい	36	57	9	26
わからない・無回答	6	3	2	9

図 11 民主の獲得議席数どう思うか



一方「もっと少ないほうがよかった」と答えた人は7%だった(図11)。自民党の議席数に対する感想と対照的な結果となっている。

支持政党別にみると、支持なし層の62%、そして自民支持層でも40%の人が「もっと多いほうがよかった」と答えている(表6)。

調査結果からは、小泉総理大臣の「改革」の姿勢を評価し、自民党が勝利した結果にはまあ満足できるものの、296という議席数は、「多すぎる」と感じている有権者が多いという

表 6 民主の獲得議席数どう思うか(支持政党別)

	全体 (%)	自民 (480人)	民主 (200人)	支持なし (290人)
もっと多いほうがよかった	56	40	94	62
もっと少ないほうがよかった	7	9	3	4
この程度でよい	30	46	3	25
わからない・無回答	7	5	1	9

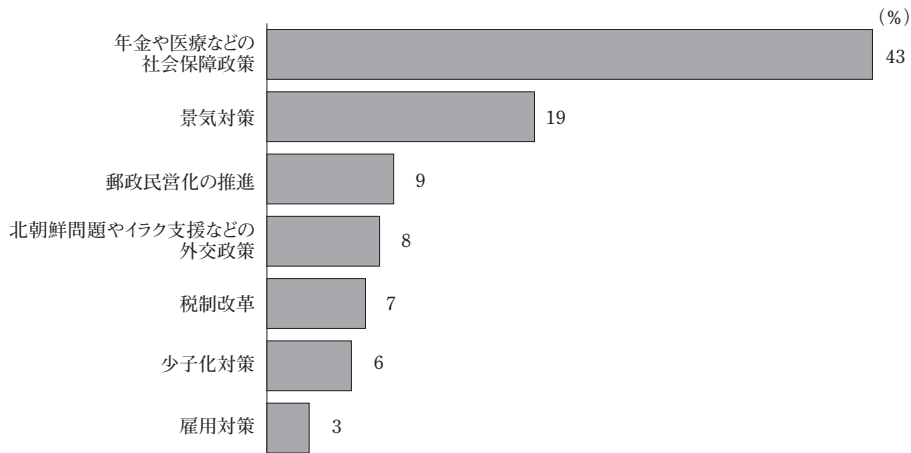
状況が浮かび上がる。

重視してほしいのは「年金や医療」

それでは有権者は、小泉総理大臣に対し、具体的にどのような期待をしているのだろうか。図12は、今後、一番力を入れて取り組んでほしい政策は何かと聞いた結果である。

「年金や医療などの社会保障政策」と答えた人が43%で一番多かった。次いで「景気対策」が19%、「郵政民営化の推進」9%など

図 12 力を入れて取り組んでほしい政策



となっている。

支持政党別にみても、自民支持層・民主支持層・支持なし層とも、「年金・医療」と答えた人が一番多かった。

郵政民営化問題が今回の選挙の大きな争点となったことは確かである。しかし、選挙後の調査結果からは、有権者の関心が郵政民営化問題だけに向けられているわけではないことがあらためて浮き彫りになった。

おわりに

今回の衆議院選挙は、劇的な解散や郵政民営化の賛否に絞った小泉総理大臣の争点設定、それに郵政民営化関連法案に反対した議員への「刺客」など、話題には事欠かなかった。

こうした一連の動きは、若い世代の関心も掘り起こした。投票前の調査結果からは、若い世代で、選挙への関心が高まったほか、自民党の支持率も高まるなど、結果的に、自民党の勝利と関連づけられるような動きが見られた。

勝敗のポイントとなった争点設定では、自民党が終始主導権を握る形になった。投票前の調査では、民主党が争点として提起しようとした年金問題などを投票の際に重視すると答えた人が多かった。しかし、結果的には「郵政民営化問題」一本に絞った自民党が支持を集める形となり、選挙後の調査でも、民主の敗因として「年金問題などが争点にならなかったから」と答えた人が最も多かった。自民党が提示した争点と、有権者にとっての「関心事」は必ずしも一致していない。それは、今後小泉総理大臣が力を入れて取り組んでほしい政策として「郵政民営化の推進」と答えた人が9%にとどまっていることから明らかで

ある。それにもかかわらず有権者が自民党を選んだのは、小泉総理大臣の、郵政民営化に対する取り組みも含めたこれまでの業績を評価して、というよりむしろ、その他の政治課題全般についても託してみよう、という「今後への期待」を込めたものだったとも言える。

こうした有権者の意識が、再来年の参議院選挙や次の総選挙の際には、どのように変化するのか、あるいは変化しないのか。自民・公明の両党あわせて全議席の3分の2を超える327議席という固い政権基盤を持った連立政権は、今後、改革の実行力を問われることになる。

(はら みわこ / こばやし としゆき)

注

- 1) この他、投票1週前に300小選挙区ごとに行う全選挙区調査を実施した。
- 2) NHK放送文化研究所編『現代日本人の意識構造(第六版)』(日本放送出版協会、2004年)

第44回衆議院選挙 全国調査 単純集計結果

	第1回全国電話調査	第2回全国電話調査	第3回全国電話調査
調査時期	投票3週間前 2005年8月19日(金)～21日(日)	投票2週間前 2005年8月26日(金)～28日(日)	投票1週間前 2005年9月2日(金)～4日(日)
調査対象	全国有権者	全国有権者	全国有権者
調査相手	1,710人	1,747人	1,748人
調査方法	電話法(RDD)	電話法(RDD)	電話法(RDD)
回答数	1,070人	1,200人	1,185人
回答率	62.6%	68.7%	67.8%

—投票に行くか—

第1問 来月(今月)11日に衆議院選挙があります。あなたは、投票はどうなさいますか。これから読み上げる4つ(5つ)の中から、1つを選んでお答えください。

	第1回	第2回	第3回
1. 必ず行く	59.3	62.5	67.3%
2. 行くつもりでいる	22.6	24.3	19.2
3. 行くかどうかわからない	11.5	8.3	6.5
4. 行かない	4.7	3.5	4.7
5. 期日前投票をした	—	—	1.5
6. 無回答	1.9	1.5	0.8

—選挙区・投票候補決定か—

問2 [問1で1.～3.と答えた人に] [問1で5.(期日前投票)の人は1.とする]

衆議院選挙は、選挙区と比例代表に分かれています。まず、選挙区のことについてうかがいます。あなたは、どの政党の候補者に投票するか、だいたい決まっていますか。それとも決まっていませんか。どちらでしょうか。 [読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 決まっている	50.0	55.5	62.0%
2. 決まっていない	39.3	36.0	29.4
3. わからない、無回答	4.1	3.5	3.1
4. 非該当(問1で4・6.の人)	6.5	5.0	5.5

—選挙区・何党の候補か—

問3 [問2で1.と答えた人に]

それでは、選挙区で投票する(した)のは、何党の候補者でしょうか。政党の名前を1つだけおっしゃってください。

	第1回	第2回	第3回
1. 自民党	23.0	25.5	26.3%
2. 民主党	10.6	11.4	15.6
3. 公明党	1.9	3.0	2.8
4. 共産党	1.4	2.1	2.2
5. 社民党	0.7	0.8	0.9
6. 国民新党	0.8	0.0	0.1
7. 日本	—	0.1	0.2
8. その他の政治団体	0.0	0.0	0.0
9. 無所属	0.1	0.9	0.3
10. わからない、無回答	11.6	11.7	13.6
11. 非該当(問2で2.～4.の人)	50.0	44.5	38.0

—選挙区・仮に投票すれば何党か—

問4 [問2で2.～4.と答えた人に]

それでは、もし仮にいま、投票するとすれば何党の候補者になりそうですか。政党の名前を1つだけおっしゃってください。

	第1回	第2回	第3回
1. 自民党	8.8	9.3	7.8%
2. 民主党	4.8	4.7	4.6
3. 公明党	0.6	1.2	0.6
4. 共産党	0.6	0.5	0.8
5. 社民党	0.5	0.5	0.2
6. 国民新党	0.2	0.1	0.2
7. 日本	—	0.1	0.0
8. その他の政治団体	0.0	0.0	0.1
9. 無所属	0.8	0.2	0.3
10. わからない、無回答	33.8	28.0	23.3
11. 非該当(問2で1.の人)	50.0	55.5	62.0

—比例代表・投票する党は決定か—

問5 [問1で1.～3.と答えた人に] [問1で5.(期日前投票)の人は1.とする]

次に、比例代表についてうかがいます。比例代表で投票する政党はだいたい決まっていますか。それとも、決まっていませんか。どちらでしょうか。 [読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 決まっている	43.9	51.4	54.2%
2. 決まっていない	41.4	36.9	33.9
3. わからない、無回答	8.1	6.7	6.4
4. 非該当(問1で4・6.の人)	6.5	5.0	5.5

—比例代表・投票するのは何党か—

問6 [問5で1.と答えた人に]

それでは、比例代表で投票する(した)のは、何党でしょうか。政党の名前を1つだけおっしゃってください。

	第1回	第2回	第3回
1. 自民党	19.1	21.3	19.5%
2. 民主党	10.5	11.5	14.3
3. 公明党	2.7	5.6	5.1
4. 共産党	1.5	2.4	2.7
5. 社民党	0.7	1.3	1.5
6. 国民新党	0.6	0.1	0.4
7. 日本	—	0.3	0.2
8. その他の政治団体	0.0	0.0	0.0
9. わからない、無回答	8.9	9.0	10.5
10. 非該当(問5で2.～4.の人)	56.1	48.6	45.8

—比例代表・仮に投票すれば何党か—

問7 [問5で2.～4.と答えた人に]

それでは、もし仮に比例代表で、いま投票するとすれば、どの政党になりそうですか。政党の名前を1つだけおっしゃってください。

[読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 自民党	8.9	7.9	8.9 %
2. 民主党	5.0	4.2	4.7
3. 公明党	0.9	0.7	1.0
4. 共産党	0.3	0.5	0.4
5. 社民党	0.7	0.5	0.6
6. 国民新党	0.4	0.3	0.1
7. 日本	—	0.0	0.3
8. その他の政治団体	0.0	0.0	0.1
9. わからない、無回答	40.0	34.6	29.6
10. 非該当 (問5で1.の人)	43.9	51.4	54.2

—望ましい政権のあり方—

問8 あなたは、衆議院選挙の後に、政権はどのような形になればよいと思いますか。これから読み上げる4つの中からあなたのお考えに近いものを1つ選んでお答えください。

[読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 自民党の単独政権	13.3	11.8	11.5 %
2. 自民党が中心となる 連立政権	39.4	39.7	37.6
3. 民主党の単独政権	7.6	6.4	9.9
4. 民主党が中心となる 連立政権	16.7	18.3	20.0
5. その他	0.2	0.4	0.0
6. わからない、無回答	22.8	23.4	21.1

—衆議院選挙に関心あるか—

問9 あなたは、今度の選挙にどの程度関心がありますか。これから読み上げる4つの中から1つを選んでお答えください。

[読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 非常に関心がある	39.5	42.3	43.5 %
2. ある程度関心がある	40.3	38.8	37.5
3. あまり関心がない	11.8	9.3	8.9
4. まったく関心がない	3.4	3.2	3.8
5. わからない、無回答	5.0	6.3	6.3

—今の支持政党—

問10 いま、あなたは、何党を支持していますか。支持している政党の名前を、1つだけおっしゃってください。

[読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 自民党	35.0	33.7	33.8 %
2. 民主党	12.5	14.3	15.4
3. 公明党	3.0	4.8	4.5
4. 共産党	1.7	2.4	2.4
5. 社民党	1.1	1.3	1.2
6. 国民新党	0.7	0.3	0.1
7. 日本	—	0.2	0.4
8. その他の政治団体	0.0	0.1	0.1
9. 特に支持している政党はない	24.5	24.4	23.7
10. わからない、無回答	21.5	18.7	18.5

—内閣支持—

問11 あなたは、小泉内閣を支持しますか。それとも、支持しませんか。

[読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 支持する	45.7	43.3	42.6 %
2. 支持しない	35.2	36.3	36.9
3. わからない、無回答	19.1	20.3	20.5

—重視する政策—

問12 あなたは、今回の選挙で投票するにあたって、どのようなことを一番重く見ますか。これから読み上げる7つの中から1つを選んでお答えください。

[読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 景気対策	14.8	13.3	14.2 %
2. 郵政民営化問題	16.8	17.9	19.2
3. 年金や医療などの 社会保障政策	43.6	45.4	43.5
4. 北朝鮮問題やイラク支援 などの外交政策	3.0	2.8	2.4
5. 税制改革	6.4	5.9	4.7
6. 雇用対策	2.3	1.8	1.9
7. 少子化対策	3.5	2.5	2.9
8. その他	0.3	0.1	0.1
9. わからない、無回答	9.3	10.4	11.2

—郵政民営化への賛否—

問13 あなたは、小泉総理大臣が進めている郵政事業の民営化に賛成ですか。それとも反対ですか。

[読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 賛成	49.9	50.9	50.5 %
2. 反対	25.1	25.0	27.3
3. わからない、無回答	25.0	24.1	22.3

—郵政民営化問題の投票行動への影響—

問14 あなたは、今回の選挙での投票にあたって、郵政事業の民営化問題に対する政党や議員の態度を考慮しますか。それともしませんか。これから読み上げる4つの中から1つを選んでお答えください。

[読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 大いに考慮する	20.5	21.6	19.3 %
2. ある程度考慮する	42.1	42.9	41.9
3. あまり考慮しない	18.1	17.2	19.9
4. まったく考慮しない	8.1	7.3	7.0
5. わからない、無回答	11.2	11.0	11.9

—造反議員への対立候補擁立どう思うか—

問15 自民党執行部は、郵政民営化関連法案に反対した議員を公認せず、その選挙区に対立候補を擁立していますが、あなたはこうした方針をどう思いますか。これから読み上げる3つの中から1つを選んでお答えください。

[読み上げなし]

	第1回	第2回	第3回
1. 当然だ	26.9	26.8	25.7 %
2. いきすぎだ	29.9	32.0	31.6
3. どちらともいえない	33.7	31.4	33.1
4. わからない、無回答	9.4	9.8	9.5

全国調査 サンプル構成

	全 体	性		年 層						
		男 性	女 性	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
第1回 全国調査	1,070人 100%	446 41.7	624 58.3	78 7.3	158 14.8	183 17.1	199 18.6	234 21.9	150 14.0	68 6.4
第2回 全国調査	1,200人 100%	530 44.2	670 55.8	62 5.2	187 15.6	210 17.5	232 19.3	213 17.8	207 17.3	89 7.4
第3回 全国調査	1,185人 100%	541 45.7	644 54.3	75 6.3	177 14.9	170 14.3	196 16.5	254 21.4	218 18.4	95 8.0

	男の年層						女の年層						無回答
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	
第1回 全国調査	37 3.5	72 6.7	88 8.2	68 6.4	103 9.6	55 5.1	41 3.8	86 8.0	95 8.9	131 12.2	131 12.2	95 8.9	68 6.4
第2回 全国調査	28 2.3	96 8.0	93 7.8	98 8.2	93 7.8	95 7.9	34 2.8	91 7.6	117 9.8	134 11.2	120 10.0	112 9.3	89 7.4
第3回 全国調査	44 3.7	88 7.4	82 6.9	93 7.8	109 9.2	97 8.2	31 2.6	89 7.5	88 7.4	103 8.7	145 12.2	121 10.2	95 8.0

	職 業						都市規模					
	農林 漁業	自営業	勤め人	主 婦	無 職	学生他 無回答	政令指定 都市	30万 以上の市	10万 以上の市	10万 未満の市	町 村	無回答
第1回 全国調査	33 3.1	136 12.7	357 33.4	262 24.5	200 18.7	82 7.7	226 21.1	184 17.2	191 17.9	218 20.4	134 12.5	117 10.9
第2回 全国調査	37 3.1	128 10.7	399 33.3	289 24.1	251 20.9	96 8.0	269 22.4	201 16.8	221 18.4	233 19.4	161 13.4	115 9.6
第3回 全国調査	39 3.3	127 10.7	385 32.5	250 21.1	276 23.3	108 9.1	246 20.8	198 16.7	239 20.2	219 18.5	170 14.3	113 9.5

	比例ブロック										
	北海道	東北	北関東	南関東	東京	北陸信越	東海	近畿	中国	四国	九州
第1回 全国調査	61 5.7	54 5.0	115 10.7	134 12.5	107 10.0	52 4.9	124 11.6	171 16.0	85 7.9	34 3.2	133 12.4
第2回 全国調査	59 4.9	77 6.4	119 9.9	157 13.1	124 10.3	64 5.3	125 10.4	198 16.5	69 5.8	47 3.9	161 13.4
第3回 全国調査	60 5.1	81 6.8	116 9.8	137 11.6	122 10.3	72 6.1	138 11.6	187 15.8	62 5.2	60 5.1	150 12.7

【調査の概要】

1. 調査目的
内閣支持や政党支持など、国民の政治意識を調査する
2. 調査時期
2005年9月17日(土)～19日(月)
3. 調査相手
全国の20歳以上の国民 1,809人
4. 調査方法
電話法(RDD)
5. 調査回答数(率)
1,131人(62.5%)

—内閣支持—

第1問 あなたは、小泉内閣を支持しますか。

それとも、支持しませんか。

- | | |
|--------------|--------|
| 1. 支持する | 58.4 % |
| 2. 支持しない | 32.0 |
| 3. わからない、無回答 | 9.5 |

—支持する理由—

第1問 SQ1 [第1問で「1. 支持する」の人に]

あなたが、小泉内閣を支持する主な理由は何ですか。これから読み上げる5つの中から、1つ選んでお答えください。

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 政策に期待が持てるから | 18.0 % |
| 2. 支持する政党の内閣だから | 11.6 |
| 3. 人柄が信頼できるから | 9.4 |
| 4. 実行力があるから | 32.8 |
| 5. 他の内閣より良さそうだから | 25.9 |
| 6. その他 | 1.1 |
| 7. わからない、無回答 | 1.2 |

(分母=661人)

—支持しない理由—

第1問 SQ2 [第1問で「2. 支持しない」の人に]

あなたが、小泉内閣を支持しない主な理由は何ですか。これから読み上げる5つの中から、1つ選んでお答えください。

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. 政策に期待が持てないから | 37.3 % |
| 2. 支持する政党の内閣でないから | 11.3 |
| 3. 人柄が信頼できないから | 19.3 |
| 4. 実行力がないから | 10.5 |
| 5. 他の内閣の方が良さそうだから | 12.4 |
| 6. その他 | 5.8 |
| 7. わからない、無回答 | 3.3 |

(分母=362人)

—小泉内閣に最も期待すること—

第2問 あなたが、小泉内閣に対して、最も期待することは何ですか。これから読み上げる9つの中から、1つ選んでお答えください。

- | | |
|------------|--------|
| 1. 年金制度改革 | 35.0 % |
| 2. 景気対策 | 16.0 |
| 3. 行財政改革 | 9.6 |
| 4. 経済の構造改革 | 11.2 |
| 5. 教育改革 | 3.8 |
| 6. 政治倫理の確立 | 3.0 |

- | | |
|---------------|-----|
| 7. 雇用対策 | 3.3 |
| 8. 危機管理の確立 | 2.1 |
| 9. 少子化対策 | 6.1 |
| 10. その他 | 3.7 |
| 11. わからない、無回答 | 6.1 |

—選挙結果の満足度—

第3問 あなたは、今月行われた衆議院選挙の結果に、全体として満足していますか。それとも不満ですか。これから読み上げる4つの中から1つ選んでお答えください。

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. 満足している | 27.8 % |
| 2. どちらかといえば満足している | 28.6 |
| 3. どちらかといえば不満だ | 16.3 |
| 4. 不満だ | 23.3 |
| 5. わからない、無回答 | 4.2 |

—自民の議席増の感想—

第4問 今回の選挙で、自民党は選挙前より大幅に議席を増やしました。あなたは、このことについてどう思いますか。これから読み上げる3つの中から1つ選んでお答えください。

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1. 自民党の議席がもっと多いほうがよかった | 5.6 % |
| 2. 自民党の議席がもっと少ないほうがよかった | 52.6 |
| 3. 自民党の議席はこの程度でよい | 35.5 |
| 4. わからない、無回答 | 6.4 |

—自民の議席増の原因—

第5問 あなたは、自民党が議席を大幅に増やした主な原因は何だと思えますか。これから読み上げる4つの中から1つ選んでお答えください。

- | | |
|--------------------------------|--------|
| 1. 郵政事業の民営化に賛成する人が多かったから | 22.1 % |
| 2. 小泉総理大臣の行動や主張が
わかりやすかったから | 31.8 |
| 3. 自民党の候補者に魅力があったから | 4.0 |
| 4. ほかの政党に魅力がなかったから | 36.0 |
| 5. わからない、無回答 | 6.1 |

—民主の議席減の感想—

第6問 今回の選挙で、民主党は選挙前より大幅に議席を減らしました。あなたは、このことについてどう思いますか。これから読み上げる3つの中から1つ選んでお答えください。

- | | |
|-------------------------|--------|
| 1. 民主党の議席がもっと多いほうがよかった | 55.7 % |
| 2. 民主党の議席がもっと少ないほうがよかった | 6.9 |
| 3. 民主党の議席はこの程度でよい | 30.2 |
| 4. わからない、無回答 | 7.3 |

—民主の議席減の原因—

第7問 あなたは、民主党が議席を大幅に減らした主な原因は何だと思えますか。これから読み上げる4つの中から1つ選んでお答えください。

- | | |
|--|--------|
| 1. 郵政民営化関連法案に反対したことが
評価されなかったから | 16.0 % |
| 2. 岡田代表の主張がわかりにくかったから | 25.0 |
| 3. 民主党が重視した年金や少子化問題が
明確な争点にならなかったから | 39.5 |

- 4. 民主党の候補者に魅力がなかったから …… 12.6
- 5. わからない、無回答 …… 6.9

—与党議席3分の2超どう思うか—

第8問 今回の選挙で、自民・公明の与党は、全議席の3分の2を超える議席を獲得しました。これによって、参議院で法案が否決された場合でも、衆議院であらためて可決して成立させることが可能になります。あなたは、このことを好ましいと思いますか。それとも好ましくないと思いますか。これから読み上げる4つの中から1つ選んでお答えください。

- 1. 好ましい …… 20.5 %
- 2. どちらかといえば好ましい …… 23.4
- 3. どちらかといえば好ましくない …… 24.1
- 4. 好ましくない …… 23.1
- 5. わからない、無回答 …… 8.8

—郵政民営化関連法案の賛否—

第9問 小泉総理大臣は、先の国会で否決された、郵政事業を4つの会社に分割して民営化する郵政民営化関連法案を、今月21日に開かれる特別国会に再度提出することにしています。あなたは、この法案に賛成ですか。それとも反対ですか。

- 1. 賛成 …… 63.4 %
- 2. 反対 …… 24.8
- 3. わからない、無回答 …… 11.8

—小泉総理大臣任期延長すべきか—

第10問 小泉総理大臣の自民党総裁としての任期は来年9月までです。小泉総理大臣は、任期延長を否定していますが、自民党内などからは任期を延長すべきだという意見も出ています。あなたは、小泉総理大臣の任期を延長したほうがいいと思いますか。それともそう思いませんか。

- 1. そう思う …… 43.7 %
- 2. そう思わない …… 48.2
- 3. わからない、無回答 …… 8.1

—重視してほしい政策—

第11問 今後、小泉総理大臣に一番力を入れて取り組んでほしい政策は何ですか。これから読み上げる7つの中から1つ選んでお答えください。

- 1. 景気対策 …… 18.7 %
- 2. 郵政民営化の推進 …… 8.9
- 3. 年金や医療などの社会保障政策 …… 42.7
- 4. 北朝鮮問題やイラク支援などの外交政策 …… 7.6
- 5. 税制改革 …… 6.5
- 6. 雇用対策 …… 3.4
- 7. 少子化対策 …… 5.6
- 8. その他 …… 1.5
- 9. わからない、無回答 …… 5.0

—靖国参拝継続賛否—

第12問 小泉総理大臣の靖国神社参拝についてお伺いします。あなたは、小泉総理大臣は、今年も靖国神社への参拝を続けた方がよいと思いますか。それともやめた方がよいと思いますか。

- 1. 続けた方がよい …… 39.9 %
- 2. やめた方がよい …… 49.7
- 3. わからない、無回答 …… 10.4

—今の支持政党—

第13問 いま、あなたは、何党を支持していますか。支持している政党の名前を、1つだけおっしゃってください。

- 1. 自民党 …… 42.4 %
- 2. 民主党 …… 17.7
- 3. 公明党 …… 4.6
- 4. 共産党 …… 2.6
- 5. 社民党 …… 2.2
- 6. 国民新党 …… 0.2
- 7. 日本 …… 0.3
- 8. その他の政党や政治団体 …… 0.4
- 9. 特に支持している政党はない …… 25.6
- 10. わからない、無回答 …… 4.1

サンプル構成

全体	性別		年齢							無回答
	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上		
1,131人	512	619	72	182	188	203	216	253	17	
100.0 %	45.3	54.7	6.4	16.1	16.6	17.9	19.1	22.4	1.5	

全体	男の年層						女の年層						無回答
	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	
1,131人	48	84	81	86	103	105	24	98	107	117	113	148	17
100.0 %	4.2	7.4	7.2	7.6	9.1	9.3	2.1	8.7	9.5	10.3	10.0	13.1	1.5

全体	職業						無回答
	専業主婦(パート含む)	勤め人	無職	農林/漁業	自営業	学生/その他	
1,131人	254	410	286	34	120	27	
100.0 %	22.5	36.3	25.3	3.0	10.6	2.4	

全体	都市規模						無回答
	政令指定都市	30万以上の市	10万以上の市	10万未満の市	町村		
1,131人	270	223	228	227	134	49	
100.0 %	23.9	19.7	20.2	20.1	11.8	4.3	